

校長通信 (11月号)

November / 1st / 2025 / VOL 038

成功の方程式「人生・仕事の成果＝能力×情熱×考え方」

東京の私立高校で担任をしていた時の36人の生徒の一人が、現在、日本航空（JAL）でキャビンアテンダント（CA）として勤務しています。彼女は高校時代、チアリーディング部に所属しており、文武両道で何事にも一生懸命でした。しかし、自分の考えや意見を伝えたり、表現することが苦手で、どちらかというおとなしい生徒の一人でした。そんな彼女と先日オンラインでお話をする機会があり、数年ぶりに再会することができました。彼女は都内の女子大学に進学し、JALに勤めて数年が経ちますが、高校時代のイメージとは全く異なる自信に満ちた表情になっていました。「一体、何が起きたの？」彼女にそう聞くと、「何かはわからないけど、今、この会社（JAL）に勤めていることが本当に楽しくて幸せで、この会社が大好きなんです。創設者の稲盛和夫さんの考え方が私は大好きなんです。」と、キラキラした表情で話してくれました。この子をごここまで変えてしまう、JALという会社と、稲盛和夫さんの「考え方」とはどんなものだったのでしょうか。

そもそもJALという会社ですが、戦後日本の航空業界をリードしてきたパイオニア的な存在でした。しかし、リーマンショック（2008）後の不安定な経済状況の中、2010年1月19日、約2.3兆円という戦後最大の負債を抱えて倒産しました。「もはや再建は不可能」との声に、敢然と立ち向かったのが京セラの名誉会長だった稲盛和夫さんでした。わずか1年後には過去最高の1800億円、2年後には2000億円を超える営業利益を上げる超V字回復を遂げることとなりました。まさに「JALの奇跡」。

では、稲盛和夫さんは経営再建に際し、何を大切にしていたのでしょうか。当時のJALの組織は、巨大化するにつれて、目標やビジョンがバラバラになり、同じ方向を向くことができていませんでした。また、組織の中には「誰かがやってくれるだろう」「自分の仕事ではない」といったように、責任感の欠如、当事者意識の欠如が大きな課題となっていました。稲盛さんは、JALの破産の問題の本質はここにこそあると目をつけました。こうした課題を背景にできたのが「JALフィロソフィ」というもので、JALの社員が仕事をする上で大切にすべき理念をまとめたものとなります。このフィロソフィという言葉は「哲学」と訳しますが、「思い／共通認識」という言葉でも当てはまるかもしれません。このフィロソフィを社員に浸透させていながら、JALは見違えるような組織となり、見事奇跡のV字回復を果たすこととなるのです。

このフィロソフィのベース（基盤）となる「考え方」とは何だったのでしょうか。稲盛さんは人が成功する方程式というものを掲げていました。「**人生や仕事の成果＝能力×情熱×考え方**」というものです。仕事を推し進める上で能力は欠かせませんので、これを一生懸命伸ばしていくことが大切です。さらに、情熱を持ってその仕事に打ち込むことで、成果は倍増していくことになります。**そして最も重要なのは3つ目の考え方であり、正しい考え方ならば、より大きな成果でプラスのものとなっていきます。しかし、間違った考え方をした場合、成果はマイナスとなっていくというもの。**シンプルな考え方ですが、これ以上に当てはまるものを私は知りません。この最後の考え方とはなんでしょう？稲盛さんは「利他」という言葉をよく使います。利己的であるのではなく、人は常に利他的でなくてはならないと。誰のために努力するのか、誰のために仕事しているのかを考えた時に、自分のため（我欲）、自分が評価されたいためということであれば、その努力はいずれマイナスな結果を導くこととなるといいます。我欲の強さは、うまくいかなくなると、その責任を周囲に向け、文句や人のせい（他責）ということにつながります。その一方で、利他は常に誰かのために努力し、貢献意欲で溢れています。こうした成果はすぐには目には現れなかったとしても、時間をかけてじわじわと現れていきます。そして何より、自分自身の内側から変化が起こり、改善を生み出していくのです。一人一人が「利他的」になったからこそ、JALは生まれ変わることができました。そんなJALの精神は私の教え子の内側にも根付き、今日も大好きな会社で、誰かのために努力をしているんですね。

第59回 創立記念日

10月26日は、御殿場西高校は第59回目の創立記念日でした。24日（金）には全校生徒に向けて、創立から現在までの道のりについて話をさせていただきました。1960年代当時、勝間田芳麿先生がどんな思いでこの学校を建設したのか、建学の精神や校訓に込めた思いはなんだったのか、なぜ校章は「ふじいばら」なのか、ルーツをお伝えしました。60年間の歴史の中で、その想いは受け継がれ、学校の伝統や文化も作られてきました。それを私たちはこれからも大切にしていきたいと思います。そして、これからの未来に向けて、御殿場西高校の生徒としてどうあってもらいたいのか。16,000人を超える卒業生が、御殿場西高校を支えてくれた教職員の方々、地域の方々、そして天国からいつもみていてくれる方々が、心の底から誇れる学校にすることです。僕らには「居場所と出番をつくり続ける学校」というビジョン（目標）があります。一人一人の安心安全な居場所と、一人ひとりが輝く出番を作っていきながら、「Go Beyond 想像以上の自分になる」という思いを持って、未来を切り開いてもらいたいと思います。不易を知り、流行を実践する。そんな学校を目指していきましょう。



スクールドッグのカールくんが虹の橋を渡りました

スクールドッグとして長年にわたって活躍してきたカール君が先週火曜日に15年の一生を終えました。約11年間にわたって、たくさんの生徒、先生方、留学生、様々なひとたちに寄り添ってくれました。カールとの触れ合いを通して、目には見えない優しさや温かさを感じ、支えられ、前を向くことができた人がたくさんいます。スクールドッグ導入期、色々な意見があったあの頃、校外で理解と納得が得られるように、同じ取り組みをする全国のさまざまな方と繋がることができました。

「犬がいる学校」を当たり前。

それを実現するためにいろんなシーンで活躍してもらいました。朝の挨拶運動、お昼や放課後のふれあい、カウンセリングルームでのふれあい。ヨボヨボになって歩くのもヨタヨタでしたが、生徒たちに撫でられるカールの目はとても優しくかった。残されたアンディはとても寂しそうにしていますが、カール君の優しさを引き継いでいってほしいと思います。カール君と関わってくれた皆さま、今まで本当にありがとうございました。カール君、ありがとう。あなたがくれた優しさを忘れません。



保護者の皆様へ

いつも本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。日本の政治も大きな転換期を迎えており、これからどのような社会変化が起こっていくのかまだまだ不透明ですが、御殿場西高校は目の前の生徒たちのために全力で向き合うことを、これからもブレずにやってまいります。3年生は受験本番に向けてここからが本当の勝負となっていきます。体調には十分に気を付けて時間を有効に活用してもらいたいと思います。

〈11月の行事予定〉

- 11月7日（金）仰高祭（文化の部）：保護者のみ
- 11月8日（土）仰高祭（文化の部）：一般公開
- 11月25日（火）2学期定期試験①
- 11月26日（水）2学期定期試験②
- 11月27日（木）2学期定期試験③ / 特別選抜コース高大連携出張講座
- 11月28日（金）生徒休業日

NOVEMBER

2025

SUN MON TUE WED THU FRI SAT

						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						